

道院だより

No.18

金剛禅総本山少林寺 埼玉北浦和道院

2010年 1月19日(火) 発行

文責 道院長 梶谷 憲 皇

合掌

新春法会・餅つき大会、大盛況！

寅年

16日、土曜日、見事に晴れ渡った空の下、浦和美園道院で「新春法会」と「新春餅つき大会」が行われました。朝8:30に幹部は集合し、打ち合わせ。9時くらいから集まり始めた拳士たちと、お手伝いのお母さん方は、手分けして準備を始めます。

10時、道院の中では新春法会が厳かに始まりました。埼玉第一小教区の道院支部からたくさんの拳士が集まり、50畳ほどある道場にあふれんばかりでした。その頃、道院の外では、お母さん方や準備の拳士の方々が、豚汁作りとお餅つきに大忙し。北浦和からは、齋藤拳士の奥さん(早菜子ちゃんのお母さん)、市ノ川拳士のお母さん、若山拳士のお母さんがお手伝いに来てくださいました。大変寒い中、本当にありがとうございました。食事会の時に他道院の方々ともお話をしているようでしたが、交流が深められましたでしょうか。これからも大会等で顔を合わせることも多いと思います。少林寺拳法の縁で結ばれた仲間達です。こういう機会に少しでも親睦を深められるといいのかなと思います。

また、埼玉大学の拳士の皆さんにもたくさん手伝ってもらいました。最近の若者は・・・なんてことを良く聞きますが、なんのその。進んで働く姿に、さすが少林寺拳法の拳士だと感心しました。さぞや監督の指導がいいのでしょう(なんて・・・)。

今回、用事等で参加できなかった拳士の皆さん、ぜひまた来年、元気に新春法会に参加していただき、少林寺拳法の拳士としての自覚と拳士同士の交流が深められれば良いなと思います。

同志互いに親しみ合い助け合い・・・

17日、日曜日は埼玉武専でした。武専とは、少林寺拳法グループ内にある専門学校「禅林学園」の武道専門(武専)コース、いわゆる地方武専というものです。月1回開催され、初段以上の拳士が入学できます。そこでは1日、少林寺拳法の技や技術、学科を学びます。教師は県内の少林寺拳法の先生方ですが、その他にも全国各地の先生方が「本校派遣教師」として来て下さり、指導にあたります。県内の拳士が集まりますので、他道院の拳士の方とも広く知り合いになれます。単に技術を学ぶという言う以上に大変有意義な時間です。

この武専の課程ですが、予科2年、本科2年、高等科3年、研究科4年、計11年という長い間かけて卒業します。私は現在高等科1年です。実は20歳のころ入学しているのですが、出席日数が足りず、何度も退学しては入学し、多分4回ほど入学しているはずです。ホントに不真面目な学生ですね。きっと私ほど長きにわたって在籍している学生はいないでしょう。

さて、その一昨日の武専、ある先生が私のクラスの担当になりました。その先生は私にとっては特別の人です。今から15年以上前、一瀬先生と演武を組んで、大会に出場していたころ、その先生も同じクラスに出場していました。その先生の組は毎年最優秀賞、1位です。私と一瀬先生は最終的に2位止まりでした。そんなことがあって、彼は私にとっては目標でもありライバルでもありました。そのかつてのライバルが、今自分の前に教師としていて、これはなかなか複雑な気持ちです。

私は、結婚して子どもができると、しばらく少林寺拳法を離れていました。復帰しても上の段位を取りたいとも思っていませんでしたし、単に少林寺拳法ができればそれで幸せという感じでしたから、15年間も4段のま

ま。そうしている間にかつてのライバルは遥か上の段位になり、武専の教師として指導している。自分はいまだ学生。抵抗がないと言えようそになります。しかし、そんなことにとらわれていたのでは人は成長できません。「**初生の赤子として、真純単一にこの修行に専念す。**」(「誓願」)です。不思議ですね。そう思うと、素直に指導を受けることができます。

変なプライドなんか捨ててしまえばいいんです。「自分はこうなんだ。」とか「この人の話は聞きたくない。」なんて思っているのは、何も吸収できませんし、成長なんかできません。教える方も、指導しているときに「そんなこと分かってる。」みたいな態度をとられたのでは、何も教えたくなくなりますよね。以前もこの「道院だより」で書きましたが、「**初生の赤子**」というのは、本当に自分を成長させてくれる、自己の「在り方」なのです。

17日の夜、思いもかけず、その先生から次のようなメールが来ました。

こんばんは。本日はお疲れ様でした。

私ね、教えるのは大の苦手なんです。もうホントに嫌でね。梶谷さんも小坂先生亡き後、梶谷オリジナル色を出すのに苦しんでおられるでしょう。

私は〇〇〇門下生として、できて当たり前！みたいな所があって、苦しみもありました。まあ今は、そのギャップを楽しんでもありますが…。

苦しく、辛い時も、常に笑顔で！を信条に頑張ってくださいね。

このメールを読んで、本当に嬉しかった。普段ほとんど話したことがなかった彼から、このような励ましの言葉をもらったのです。昨年からのいろいろな状況を見ていて、気にかけてくれていたのですね。

彼のメールにあるように、大会では常にトップを求められ、できて当たり前、そういう立場に置かれる苦しみ、これは、いろいろな世界をみても分かりますが、トップを維持していかなければならないということほど辛いものはないだろうと思います。そんな彼がわざわざこのメールを私にくれたのは、きっと、私が、小坂先生という大きな存在を背負って、無理をしているのではないかと、苦しんでいるのではないかと心配をしてくれていたのではないかと思うのです。

私は武専や大会で、いろいろな先生方から、「頑張れ」という声援をたくさんいただきます。道院のみんなも支えてくれています。多くの人たちが応援してくれているのだと思うと、その都度勇気づけられます。これこそ少林寺拳法の素晴らしさなのだと思うのです。決して、互いの足を引っ張り合い、他人を引きずりおろしてでも自分が上に上がろうとするような世界ではありません。「聖句」に「**己こそ己の寄るべ、己をおきて誰に寄るべぞ**」とあるように、確かなよりどころとなる自己を形成確立し、そして、自分も生きるが他の人も生かす、「**半ばは自分の幸せを、半ばは他人の幸せを**」、本気で考えられる人を育てるという少林寺拳法の教えの素晴らしさが、こうした人間関係をつくりあげているのだろうと、あらためて思いました。

「誓願」の1つ目にあります。

「我等此の法を修めるに当り、祖を滅せず師を欺かず、長上を敬い、後輩を侮らず、同志互いに親しみ合い助け合い、協力して道のためにつくすことを誓う。」

こういう経験をできる団体が少林寺拳法です。この素晴らしい少林寺拳法に出会えたことに私は本当に感謝したいと思うと同時に、この素晴らしい教えを、技を、次の世代に正しく伝えていかなければいけないと、強く思いました。

拳士みなさん、今年もまた頑張ってください。

結手